

国指定重要文化財

地域の守り神
戸隠神社本殿(肝川)



神社総代の
車周太郎さん

この神社は、古くから
鉱山と農耕で開かれてきた
肝川地区で、土地の守り
神である産土神(うぶ
すなのかみ)として信仰
され、明治になるまでは
九頭大明神と呼ばれ、大
自然を守る龍神として、
特に水を守る神として祀
られていました。

現在の本殿は、大永4年(1524年)に棟
上げされた町内最古の建造物で、国の重要
文化財に指定されています。槻並や川西市
見野などの地元の大工によって造られたも
ので、近年の大規模な解体修理により当初
の極彩色の姿に復元されました。未長く大
切に保護するために、本殿全体は覆屋(お
おいや)と呼ばれる建物の中に納められており、通常は
格子越しの拝観となります。

神社総代を務め、管理をされている車周太郎さんは
「昨年は400人ほどが初詣に来られました。地域では、夏
祭・秋祭や感謝祭を含め、昔から年7回の祭行事を変わ
らずに行い、当番で掃除をするなどして大切に守ってい
ます。この文化財を通して、地域の発展と猪名川町の発
展につながれば幸いです」と話されました。



中橋 弥里

渡 悦子

郷土の宝・文化財
悠人の時を越えて

豊かな自然に恵まれた猪名川町には古代
から人が住んでいたと言われ、町内には指
定文化財をはじめとする多数の文化遺産が
残されています。これらの文化財は私達の
誇りであり、大切に引き継いでいかなけれ
ばならない先人からの贈り物です。

今回は、国や県の指定・登録を受けてい
る町内の文化財を紹介します。

多様な文化財の数々

町内には、国の指定重要文
化財である「戸隠神社本殿」
と国の登録有形文化財である
「静思館(旧富田家住宅)」が
あります。そして、八幡神
社本殿・八坂神社本殿・天澤寺
石造り灯ろう・木喰仏(26
体)・天然記念物であるネズ
とモッコクの大木が兵庫県指
定文化財になっています。



国登録有形文化財
静思館(旧富田家住宅・上野)

国登録有形文化財に登録された静思館は、資
産家として知られた富田熊作氏(故人)が建て
た昭和初期の建築物です。

茅葺き、総檜造りの母屋と4つの土蔵などか
らなる屋敷や、当時の家具類や道具類からは風
情ある昔の懐かしさを感じることができます。



石造り灯ろう(木津)

奈良時代の高僧行基
が開いた楊津院の後身
と伝えられる天澤寺。
その境内にある石造り
灯ろうは、春日型と呼
ばれる形式で、応永10
年(1403年)に造立さ
れたものです。

木喰仏(26体)

江戸時代後期に全国を巡
りながら各地で造像を行
った木喰明満上人。その木
喰仏は、人の心を癒す豊
かな微笑みを浮かべてい
ることから「微笑仏」と
も呼ばれ、「木喰さん」の
愛称で親しまれています。



東光寺の木喰仏

町内に残る木喰仏は、明満上人の
最晩年の円熟した作品で、北田原の
東光寺に14体、上阿古谷の毘沙門堂
に7体、万善の天乳寺に3体、個人
所有の2体を含めた26体が大切に
保管されています。

八坂神社本殿(杉生)



覆屋内に立つ本殿は江戸初期の
建築と推定され、毎年秋には、境
内にある舞台上で子ども歌舞伎「練
り込み」が行われます。

八幡神社本殿(朽原)



本殿は、室町時代の後期に建立された
と推定され、覆屋で保護されています。

ネズとモッコクの大木



ネズ

清水地区の住宅街に
隣接した山中にどっし
りと根を張るネズとモ
ッコクは、樹高18~
20mにおよぶ2本の
大木で、清水在住の末
松信代さんが大切に管
理されています。

ネズはヒノキ科で、
葉の先端が鋭くとがり、
ネズミ除けに使われ
ていたことから、ネ
ズミサシ(ネズミ刺し)
とも呼ばれています。
またモッコクはツバキ
科で、夏にはよい香
りのする小さな花が
咲きます。

今から486年前の大永2年(1522年)に
「御大師さんを祀りなさい」と夢でお告げを



モッコク

聞いた末松さんの先
祖が、大師堂を建て、
その側に植樹した木
だと伝えられていま
す。

毎年4月21日に行
われる御大師様の祀
り行事では、地域の
人々はモッコクの下
に敷物を敷いて、煮
しめや焼き物、きな
粉をまぶしたおにぎ
りなどをお供えし、
詠歌をあげます。

末松さんは「長い年
月を生き続けるネズ
とモッコクから強い
生命力を感じます。
これからもこの2本
の木を大切に守り
受け継いでいき
たいと思っています」
と話されました。

新年あけましておめでと
うございます。
今年、家族やお友達と
のんびり町内の文化財
をめぐるのも良いかも
せんね。【いながわ特
派員】

後編
記集

